

作文コンクール “Leading to the Future 未来に向かって～教育・夢・感動～”
2023 最優秀賞作品「絆を紡ぐ言葉」

大阪府立大阪南視覚支援学校 高等部 2 年 酒井 響希さん

現在、僕は視覚支援学校の高等部に在籍し、フロアバレーボール部に所属している。フロアバレーボールとは、床上に三十センチの隙間を作って張ったネットの下を通るようにボールを打ち合う六人制のスポーツだ。ここで僕は一生思い出に残る経験をした。

二〇二二年夏、各地区代表となった盲学校十校が集まり、第六回全国フロアバレーボール大会が山口県で行われた。この大会で二連覇を勝ち取るべく、僕たちはチーム一丸となり日々練習を重ねた。しかし、何度練習してもミスをしてしまう。うまくなれない。もどかしさが募るプレーを一人一人が自覚するようになっていた。そんな時、いつも監督が、それぞれにあった的確な解決方法を教えてくれた。姿勢、ボールを撃つタイミング、瞬時に試合状況を共有できる指示の仕方など様々だ。アドバイスを受けた選手は皆、面白いくらいに一瞬で苦手を克服してしまう。実際、僕も監督の一言で、打ち返すボールの速度を格段に上げることができた。どんな選手でもすぐに成長させる魔法のような言葉が、不思議だった。そこである日、「目の見え方もプレースタイルも一人一人全然違うのに、何でそんなに的確な改善方法がわかるんですか。」と尋ねた。監督は、「全員のプレースタイルを記録した動画を細かく見返している。」と答えた。僕は驚いた。選手以上にチーム力向上のために努力しているなんて、思いもよらなかったからだ。さらに監督は「うちの学校は強いし、絶対優勝できる。」と言いきった。その瞬間、僕たちへの信頼と大きな期待を強く実感した。心がすごく温くなった。その期待に真っ直ぐに応えたいと思った。

全国大会当日。決勝は大接戦となった。心臓が激しく高鳴った。緊張に耐え、最後まで極限の集中力で戦い抜いた。試合終了の笛が鳴り、体から一気に力が抜けた。「おめでとう！」という歓声が響く中、監督が僕たち部員にだけ聞こえる声で「本当によく頑張りました。」と言った。優しく包み込まれたような感覚になり、優勝を勝ち取った喜びが全身を駆け巡った。努力を続けて本当によかったと思えた。あの時の感覚は、今でも鮮明に僕の体に焼き付いている。チームメイト同士の絆、監督との強い絆が成し得た全国優勝だった。そして今年の大会に向けて新たなスタート切り、切磋琢磨した結果、僕たちは大会史上初の三連覇を成し遂げた。全員の実力が光る試合に、これまでにない達成感を味わった。

僕が思う盲学校最大の魅力は、先生と生徒との強い絆だ。それは単に少人数教育だから実現するものではない。共にたくさんの経験ができることこそが、揺るぎない信頼関係を生む。なりたい自分をめざし、実際に成長できた時、人と人を結ぶ強い絆は、とびっきりの力と何百倍もの感動をもたらす。将来は、人と支え合い、繋がることの大切さを生徒と分かち合い、「絆の輪」をどこまでも広げられる教師に、僕はなりたい。